

九州大学
大型計算機センターニュース
No. 410

1990. 2. 5

福岡市東区箱崎6丁目10番1号
九州大学大型計算機センター
広報教育室(TEL092-641-1101)
内線 2505

目 次	
1. 年度末及び年度始めの計算サービスの一時停止について	1
2. 3月以降の計算サービス時間について	2
3. マスストレージ (MSD) の継続手続きについて	3
4. GRAPHMANのバッチ処理によるOPR出力機能の追加について	3
5. TSSのレベルアップについて	4
6. カード保管棚の整理について	4
7. 平成2年度公用データベース提供 公用データベース用ソフトウェア開発課題の申請について	5
8. 平成2年度(前期)ライブラリプログラム開発計画募集について(再掲) ...	5

1. 年度末及び年度始めの計算サービスの一時停止について

このことについて、年度末及び年度始めの処理作業のため下記のとおり、計算サービスを一時停止します。

月 日	利用者サービス	センター内作業
3月28日(水)	1989年度サービス終了日	サービススケジュール通り終了
3月29日(木)	サービス停止	出力待ちジョブの強制出力作業
~		システムの変更作業
4月2日(月)		登録申請作業
4月3日(火)	1990年度サービス開始日	

(第一業務掛 電(内)2517)

2. 3月以降の計算サービス時間について

1990年3月1日から'91年2月28日までの計算サービス時間は次の通りです。

サービス時間

サービス項目		曜日	開始時刻	終了時刻		
			通年	3月～8月	9月～11月	12月～2月
セ ン タ で の 内 利 用	クローズLP出力	月	12:30	16:45		20:00
		火～金	9:00			
		土	9:00	12:00	12:00	
	TSS オープン利用機器	月	12:30	22:00		23:00
		火～金	9:00			
		土	9:00	17:00	17:00	
セ カ ン タ の 利 外 用	TSS (UTS) RJE	月	12:30	24:00	2:00	
		火～金	9:00	(22:00)	(24:00)	
	ネットワーク	土	9:00	17:00	17:00	

備考 1. 毎週月曜日は計算機システムの保守のため12時30分から計算サービスを開始します。

2. 16時45分以降(12月から2月までの間は20時以降)は無人運転となり、システムに障害が発生したときは、15分後に自動的に再開します。ただし、時間経過後に再開できない場合は計算サービスを打ち切ります。

3. 無人運転時のラインプリンタ出力は、ターミナル室のオープン出力用日本語ラインプリンタ装置を利用してください。使用方法はオープン機器室に掲示しています。

4. 延長運転を行う場合はそのつどセンターニュースで通知します。

(第一業務掛 電(内)2517)

3. マスストレージ (MSD) の継続手続きについて

平成2年度も引続きマスストレージ (MSD) を利用される方は、3月17日 (土) までに共同利用掛へご連絡下さい。なお、平成2年度への計算機利用継続手続きがされていない場合は認められませんのでご注意ください。また、取り消しを希望される方は、マスストレージ取消申請書を必ず提出してください。現在マスストレージの新規受付は中止しています。

(共同利用掛 電 (内) 2505)

4. GRAPHMANのバッチ処理によるOPR出力機能の追加について

1月29日 (月) より標記機能を追加しています。

以下に示す制御文のように、DD名 FT70F001 に図形を格納するデータセットを割り当てておくことにより、そのデータセットを用いてOPRに出力することができます。

```
//A79999AG JOB, CLASS=A
// EXEC GRAPHMAN
//FT70F001 DD DSN=A79999A.GRAPH.DATA, DISP=(NEW, CATLG), UNIT=PUB,
//          SPACE=(TRK, (10, 5), RLSE)
//SYSIN DD *
12
PDB 'LIB.SAMPLE.GRAPHMAN'
USE CONT2N
DISPLAY BIRD
ENDG
/*
//
```

上記ジョブ終了後、に以下に示すTSSコマンドを入力する。

```
READY
DSPRINT GRAPH.DATA OPR機番 DOC
READY
```

参考文献

1. 計算機マニュアル FACOM OSIV/F4 MSP GRAPHMAN説明書
(78AR-5170-3), 富士通㈱

(ライブラリ室 電 (内) 2508)

5. TSSのレベルアップについて

1月29日(月)から、TSSのコマンドプロシジャで下記のレベルアップを行っています。

・中間コードの保存

コマンドプロシジャ実行時に、OBJパラメタを指定すると、CLISTの中間コードデータセットが作成されます。次回からは、これを実行することによって、実行性能が向上します。

例) コマンドプロシジャのTEST. CLISTを実行する場合、まず、

```
EXEC TEST. CLIST OBJ (TESTOBJ)
```

を実行すると、中間コードのデータセットとして、TESTOBJ. CLISTが作成されます。次回からは中間コードを実行します。

```
EXEC TESTOBJ
```

中間コードを保存するデータセットは利用者が指定しますが、そのデータセットが存在しない場合はシステムが新規に作成します。利用者が作成する場合は下記の属性で作成してください。

データセット編成:	順編成, または区分編成
レコード形式	: FB
レコード長	: 80 バイト
ブロック長	: 3120 バイト

(第一業務掛 電(内) 2517)

6. カード保管棚の整理について

公衆電話横等に備付けているカード保管棚の整理を3月末に行います。カード保管棚の利用期限(受付日より6カ月)が切れたまま利用されている方は、3月28日までに切り替え手続きを2階受付で行ってください。なお、期限切れになったカード保管棚のカードは、2階入出力室内で1カ月間保管したあと廃棄処分致しますので御了承ください。

(第一業務掛 電(内) 2517)

7. 平成2年度公用データベース提供、公用データベース用ソフトウェア開発課題の申請について

標記申請を下記のとおり受け付けます。公用データベース、公用データベース用ソフトウェア開発課題は、申請されたものの中からデータベース委員会では審議の上、決定されます。公用データベースと認められますと、開発、構築、維持に必要な計算経費が一部または全額免除されます。

記

1. 申請資格 本センター利用有資格者
2. 申請締切 平成2年2月26日(月)
3. 申請手続 所定の申請書に必要事項を記入の上、データベース室(内線2510)まで提出する。
(申請書はデータベース室に用意してあります。)
4. 対象課題 広範囲の研究者により学術研究上必要とされ、継続的かつ頻繁な利用が見込まれるデータベース、及びデータベース用ソフトウェア

(データベース室 電(内)2510)

8. 平成2年度(前期)ライブラリプログラム開発計画募集について(再掲)

ライブラリプログラム開発計画募集要領(後述)に基づき、標記開発計画を下記のとおり募集します。多数の応募を歓迎します。

記

1. 応募資格 本センター利用有資格者
2. 応募締切 平成2年2月26日(月)
3. 応募手続 所定の申請書に必要事項を記入の上、ライブラリ室(内線2508)まで提出する。
(申請書および募集要領は、ライブラリ室に用意してあります。)
4. 対象課題
 - a) 広く各分野で使われる可能性のあるプログラムの開発。
 - b) ある専門分野に限られるが、その分野では広く使われる可能性のあるプログラムの開発。

なお、開発されたプログラムは、なるべく早い時期にセンターのライブラリプログラムとして登録および公開するものとしますが、これら開発に関する事項の詳細については、次項に示す募集要領を参照してください。

ライブラリプログラム開発計画募集要領

1. 対象となる課題

- a) 広く各分野で使われる可能性のあるプログラムの開発。
- b) ある専門分野に限られるが、その分野では広く使われる可能性のあるプログラムの開発。

ただし、次のような課題については原則として認めない。

- i) 一般的な手法が確立されていなくて、研究的性格の強い課題。
- ii) 既に登録されているプログラムの保守、デバッグのための課題。
- iii) 他センター等のプログラムの書替え・移植において、その作業が極めて容易であると考えられる課題。

2. 公募は年2回（前期、後期）とする。申請された課題は、締切の翌月のプログラムライブラリ委員会（以下、委員会）で審査する。ただし、開発に際し、多数の長大ジョブの実行が必要であると考えられる場合は、原則として前期に申請し、繁忙期に入る前（11月位）までに開発を終了するものとする。

前期締切：2月末日（開発開始は 4月1日予定）

後期締切：8月末日（開発開始は10月1日予定）

採用された課題は、センターニュースで広報する。

3. 開発者の義務

- i) 開発終了後、早い時期にライブラリプログラムとして登録および公開するものとする。
- ii) 利用者のための「利用の手引き」を作成する。これを終了報告書として委員会で審議する。
- iii) 開発したプログラムの概要あるいはその使用法をセンター広報に掲載する。

4. 開発に係る経費等

- i) 採用された課題に対して、ライブラリ開発用の登録番号を割当て、それに係る計算機利用負担金は、センターで負担するものとする。計算機利用負担金の限度額は、申請時の計算時間により別に定める。
- ii) 計算機利用負担金以外で開発に必要な旅費、雑費等は、この開発計画による負担の対象とはしないので留意すること。

5. 開発作業

- i) ライブラリ開発は年度毎（4月～翌年3月）とする。開発継続の場合には、十分な資料とともに継続申請書を提出する。
- ii) 開発継続の場合にも、完成した範囲内で登録手続きをとることが望ましい。
- iii) 同一課題での継続は、原則として3年までとする。

6. その他

- i) 申請書に不明な個所があったり、申請計算時間が過大であると思われる場合や、開発経過が不首尾であると考えられる場合は、委員会にて口頭説明を求めることがある。
- ii) サブルーチンまたは関数副プログラムのライブラリの場合、既に登録してあるものと呼び出し名が同一にならないように注意すること。

- iii) オンラインマニュアル（計算機に格納され利用可能なマニュアル）を用意することが望ましい。

申請計算時間と予算額

計算時間（分）	60	120	180	240	300	360	420	480	540
予算額（万円）	10	15	20	25	30	35	40	45	50

（ライブラリ室 電（内） 2 5 0 8）